

<開催趣旨>

北海道内各地域の課題解決・活性化に携わる方々から広く御意見をお伺いし、新たな北海道総合開発計画の立案に活かすとともに、地域づくりの関係者相互の協力関係の促進を図るために開催。

日時：平成27年3月8日(日) 9:00～11:20

場所：札幌プリンスホテル 国際館パミール3階

パートナーシップ会議出席者

(敬称略)

【道南地区】

函館市縄文文化交流センター 館長 阿部 千春
NPO法人スプリングボードユニティ21 理事長 折谷 久美子

【道央地区】

公益社団法人日本青年会議所北海道地区協議会 会長 植村 真美
北海道大学現代日本学プログラム 准教授 クリーン・スザンネ
佐伯農園代表・北海道指導農業士 佐伯 昌彦
北海道酒造組合 専務理事 西田 孝雄
株式会社ホリ 代表取締役社長 堀 安規良

【道北地区】

上士別IT農業研究会 会員 後藤田 実
株式会社エフエムもえる 代表取締役社長 佐藤 太紀

【道東地区】

株式会社北海道ネイチャーセンター 代表取締役社長 坂本 昌彦
株式会社紋別セントラルホテル 常務取締役 田中 夕貴
北海道ガーデン街道協議会 会長 林 克彦



出席者の方々と意見交換する太田大臣



実施内容

- ◆出席者による意見発表
テーマ：「人が輝く地域社会」と「世界に目を向けた産業」
①ご自身が実践されている分野での活動や取組の紹介
②日頃の活動を踏まえた意見
- ◆意見交換
- ◆太田大臣からのコメント

北海道価値創造パートナーシップ会議 in 札幌 ～新たな北海道総合開発計画に向けて～
出席者の意見概要

【食・観光関連について】

- 北海道にしかなく、知名度がまだ低いものを活かした先駆的な取組を。驚きの瞬間が付加価値となる。
- 道内の素材を活用し、大学と連携した製品の開発に取り組んでいる。田舎だからできることを前に進めていく。
- 無人トラクターについては、天候に左右されず、少ない従事者で作業することができる。実証実験で終わらせることなく、引き続き安全面の検証など続けていき、日本を農業機械の技術先進国としたい。
- 外国人が安心安全に楽しめる環境づくりとして、インフラ・情報・言語・レンタカーシステムのさらなる整備充実・広域連携が必要ではないか。
- 縄文文化は海外でも関心が高まっており、オリンピック・パラリンピックに向け、自然や食文化と合わせ新しい価値として情報発信していきたい。

【地域づくりについて】

- 「田舎であればあるほど面白いことができる」というマインドをつくって欲しい。
- 地元の人が安心感を持って暮らしていなければ、笑顔でおもてなしもできない。地域が輝けるような交通インフラの確保が必要。医療・福祉・教育等、暮らしの条件が厳しい地方の街にこそ、交通インフラの果たす役割は大きい。
- 北海道は本州と異なり都市間が離れすぎており、都市・生活サービスを維持するためには、この距離をどう埋めるのかという視点で取り組んでいかないと難しい。
- 青年会議所ではたくさん出合いを構築するようきっかけの場を作ることを実践している。行政職員を含め、多くの参加を。

【人材の育成・確保について】

- 地方には、地域資源があり、人はいるが、中央とローカル、ローカルとローカルを結ぶ人脈と情報が足りていない。国内外の豊富な経験を持つクリエイティブで危機意識のある人、連携をマネジメントできる人が必要である。
- 地域振興の取組の総論を考える人は沢山いるが、地域に入って各論を具体的に動かす人がいない。具体策をしっかりと地道に実行できた地域だけが成功する。
- 農業経営者の育成が今日的課題。労働力の確保にむけて生産性の向上を図る必要がある。
- さっぽろ雪まつりの北海道地酒販売所に多くの外国人が来るが、対応は外国語ができるアルバイト頼みで、来年の人材の確保に悩んでいる。
- ローカルアイデンティティやイノベーションが生まれるよう、若手の提案機会の創出などに取り組んではどうか。